



## 競技を楽しみ 自力を発揮!

こ ば のりゆき  
古 場 憲 幸 さん

10月28日から愛媛県で行われる第17回全国障がい者スポーツ大会に北海道選手団の一員としてフライングディスク競技に出場する古場憲幸さんにお話を聞きました。

### 辛い過去を乗り越え

**僕は** 高校生の時にアスペルガー症候群と診断され、現在もメンタルクリニックに毎月1回通っています。気持ちの浮き沈みが大きかったり、人とのコミュニケーションを上手くとることができなかつたため、中学生の時には「いじめ」にあり、辛い学校生活を送っていました。当時太美にあった星槎国際高等学校への入学のタイミングで当別町に移住し、現在は「社会福祉法人ゆうゆう」が管理しているグループホームに一人で生活しています。高校生の時から「オープンサロン Garden」で仕事をするようになり、今は「コミュニティー農園ペこペこのはたけ」で働いています。

### 運動嫌いがスポーツを楽しむ人に

**フ**ラともひろ イングディスクと一緒に働いている池田友洋君から3年くらい前に誘われて始めました。もともと運動は苦手だったので、上手くディスクを投げられるか不安でしたが、最

初の練習で総合体育館のアリーナの端から端まで飛ばすことができ、自分でも驚きました。



笑顔でインタビューに答える古場さん（右）と池田さん

障がい者スポーツでのフライングディスクは、飛距離を競い合う「ディスタンス」とディスクのコントロールでポイントを競い合う「アキュラシー」の2種目があります。最初の練習で遠くに飛ばせましたが、その後距離を伸ばせなかつたためディスタンスではなくアキュラシーをメインに練習してきました。アキュラシーは、5mまたは7m離れた内径0.915mの輪にディスクを10投投げ入るのを通過した数でポイントを競います。過去2回の北海道大会では5m部門での出場でしたが、今

年は思い切って7m部門に挑戦しました。距離が長い分難しいですが、10月1日開催の第23回北海道障がい者フライングディスク大会で2位。10月28日から愛媛県で開催される全国大会では、1位を取りたいと思っています。でも、高得点や勝利を意識してしまうとプレッシャーで自分のプレーができなくなるので、競技を楽しむ事ができれば、普段の力を発揮できるものと考えています。

### 次なる挑戦へ

**現在**は障がい者の大会だけに出場していますが、いずれは健常者の大会に出場してみたいと思っていますし、障がい者・健常者が一緒になって楽しめる事ができたらいいなと思っています。

インタビューでは、辛い過去のこと話してくれた古場さん。今はたくさんの仲間と仕事もスポーツも楽しんでいます。

(10月11日取材)